

タイトル：多職種連携と I T

～双方向型情報共有ツール「Net4U」と WEB 会議システムの応用～  
Multi-professional team for homecare using Information technology: Applying an interactive information sharing system "Net4U" and Web conference system.

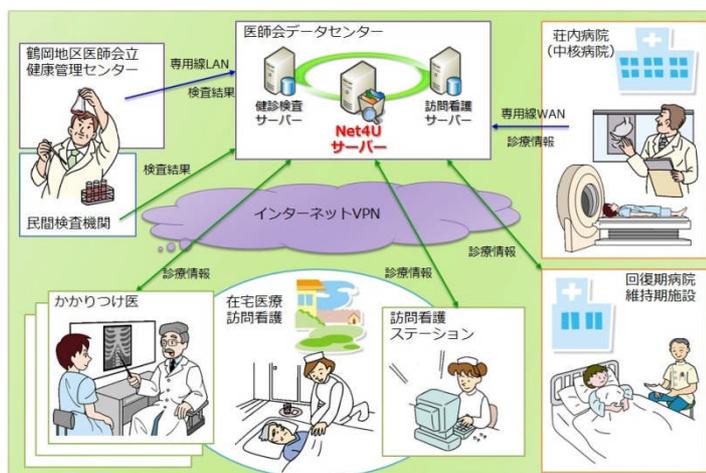
演者：三原一郎, Ichiro Mihara

所属：鶴岡地区医師会, Tsuruoka Medical Association

執筆者連絡先：[icchy@abelia.ocn.ne.jp](mailto:icchy@abelia.ocn.ne.jp)

## Net4U とは

Net4U は、アプリケーション、患者データをすべて医師会のサーバで一括管理する双方向型の情報共有システムである。回線にはインターネット・VPN を利用する。機能として、電子カルテの共有機能、所見入力、処方入力、画像、PDF 登録、紹介状作成と送付機能、訪問看護指示書作成・送付機能、臨床検査データの自動取り込み、複数医療機関の検査結果の時系列表示・グラフ化、新着アラート機能などを備える。また、Net4U と連動するかたちで、訪問看護支援システム、地域連携パスシステムも運用されている。



## 運用状況

2010年12月末現在、Net4Uには、中核病院の市立荘内病院を含む5病院（これは地域内の全病院である（精神病院を除く））、35診療所（全診療所の約30%）、2訪問看護ステーション、ケアプランセンター、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、4調剤薬局、荘内地区健康管理センターおよび三つの民間検査会社が参加している。02年1月の運用開始以来、10年の運用で、登録患者数は23,722名、そのうち約20%に当たる5,791名の患者情報が複数の医療機関で共有されている。

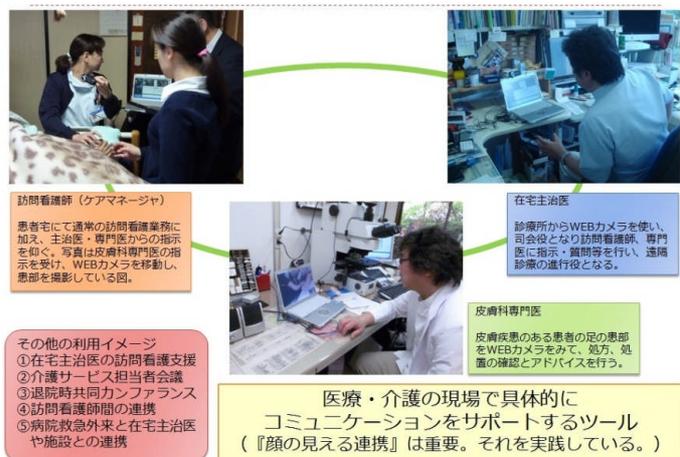
## 緩和ケア普及のための地域プロジェクト (OPTIM) と Net4U

08年、鶴岡・三川地区では、国による、がん対策のための戦略研究「緩和ケアのための地域プロジェクト」(OPTIM)を受託した。がん患者を十分な緩和ケアのもと在宅でも看取れる体制を定着すべくさまざまな活動を行っているが、多職種連携を進めるツールとしてNet4Uを活用している。具体的には、プロジェクト介入患者をNet4Uに登録し、退院カンファレンスシート、退院サマリ、訪問時の所見、処方、治療方針、質問や回答などを、在宅主治医、訪問看護師、訪問リハスタッフ、病院の緩和ケアチ

ーム (PCT)、薬剤師、ケアマネジャーなどの間でリアルタイムに共有できるようにしている。Net4U の利用で、病院→在宅、在宅→病院へそれぞれ移行した後も患者の状態をそれぞれの施設から閲覧でき、多職種がゆえにばらばらになりがちな治療方針を皆で共有することで、同じ方向で患者と向き合える一助となっている。とくに、PCT の Net4U への参加は、緩和医療に不慣れな一般開業医や訪問看護師にとって、大きな安心感につながっている。在宅緩和ケア普及の阻害因子のひとつである、一般開業医ががんの末期患者を受け入れることが困難であるという状況は、IT を活用し、多職種が協働することで、ある程度緩和できるのではないかと考えている。

## 在宅医療などにおける WEB 会議システムの応用

09 年、鶴岡市とのコンソーシアムにより総務省のユビキタスタウン構想推進事業を受託し、WEB 会議システムを導入した。複数の場所を繋いでのケアカンファレンス、施設入所者に対する主治医、専門医による遠隔医療・相談、退院前カンファレンスなどへの応用を期待し、現在実証実験を行っているところである。通信が不安定、操作に不慣れ、設定が面倒、などの問題もあり、日常的に活用するには至っていない。



## まとめ

今、地域に求められているのは、少ない地域の医療リソースを有効かつ効率的に活用する体制づくりである。そこでは、医師ばかりでなく看護師、薬剤師、リハスタッフ、ケアマネジャーなどコメディカルの参加による、いわゆる多職種連携によるチーム医療が欠かせない。Net4U は 10 年以上順調に運用され、地域連携に欠かせないツールとして定着しているが、継続して運用されている要因のひとつとして、コメディカル特に訪問看護師や薬剤師などの積極的な関与が挙げられる。また、OPTIM を契機として PCT が参加したことにより、Net4U の有用性はさらに拡大した。これらのことが示しているのは、Net4U はあくまで通信メディアのひとつであり、それが活用されるには、まずそこにニーズがあり、それを積極的に使おうという人がいて、理念を共有した顔の見える関係が必要だということである。

昨今の医療連携 IT 化の主流は、病院の電子カルテ情報を開業医に開示するというのが一般的になっている。しかし、地域医療で必要とされる多施設・多職種連携、特に在宅医療においては、一方向型の情報提供では不十分であり、単に情報を共有するだけではなく、相互のコミュニケーションを可能とした Net4U のような双方向型のシステムの普及が期待される。